

六段合格

24回目の挑戦で合格

基本稽古の徹底で姿勢を正した

大桃秀介（68歳・大和市剣道連盟理事）

私はもともと柔道の経験者でした。剣道をはじめたのは42歳の頃、子どもが地元につきみ野剣友会に通いはじめたことがきっかけです。たちまち私のめり込んでしまい、次第に子どもたちの指導も任されるようになりました。昇段審査も受けてきたのですが、六段審査が大変でした。

今回、合格させていただきましたが挑戦は24回目になります。受からなかった時には「なんとか受からないと」と気持ち焦ることもありましたが、最近では肩の力が抜けた部分がありました。ある意味「開き直った」のかもしれない。最近の稽古では、姿勢を正して打つことに注目し、基本打ちを徹底して行なうようにしました。個癖を直そうとしたためです。私は柔道をやっていたので、腕力を利用して力で振りまわす癖がありました。腕で振りまわせば姿勢も崩れず。また、柔道の動きに慣れていたので、剣道特有の足さばきにも苦労しました。これらを改善するために、実行したの

が姿勢を崩さないで打つ稽古です。姿勢を崩さないために、自分が届くと思う距離よりも前に詰めて、近間から打つようにしました。そうすることで、打突そのものよりも姿勢を崩さないようにする、ことに意識がいきます。

この取り組みで、以前よりも力みがかく、スムーズに打突ができるようになった気がします。

たまたまではありますが、審査当日も内容にある程度納得のいく剣道を披露できたと感じています。私のお相手は、二人ともあまり動かない剣風のタイプの方でした。にらみ合っているも仕方がない、と「今までやってきたこと（基本打ちの稽古）をさせてもらおう」と、真っ直ぐ技を出しました（と思います）。ですので、気持ちも体も力みなくやれた感触がありました。

日常生活で心がけてきたことはとくにありません。私の日々の剣道生活では、まず少年指導がありましたので、「子どもたちに間違ったことは教えられない」

という気持ちはありましたが……。少年指導に比重を置いていたので、自分自身のための稽古をそれほど行なっておらず、昇段審査にのめり込まなかった、というところもあります。かえって「審査、審査」と固執することなく、リラククスできたのかもしれない。

また、60歳で警視庁を退職してからは、

時間にも余裕が生まれ、より集中して稽古に取り組めるようになった、という点もあります。今回の合格に関しては、地元神奈川の先生方や、受審先で知り合った方々など、多くの人から祝福のお言葉をいただきました。ありがたい限りです。これからも、教え子たちとともに剣道に精進してまいりたいと思います。